

## 粉碎玉手箱

鷹司秀の腰が爆発した。

流石に毎晩酷使しすぎたのだ。

正確な診断名は知らないのだけれど、いわゆるぎっくり腰というやつらしい。

いつも通り楽しげに私を攻め立てていた鷹司秀が、いきなり無言になって蹲った時は普通に動揺してしまった。

よくわからないが好機と思い逃げてみたものの、内側からも指紋認証をパスしなければ開かない最悪な玄関扉のせいで、逃亡は失敗に終わった。

痛みにもうめく鷹司秀が私の一連の行動を眺めつつ、どこかに電話をして早々に医者を呼んだのも記憶に新しい。

同時に来た黒服に私は別の部屋に隔離されてしまったので、白衣の男がどのような診察をしたのかは知らないが。

ただ全員が帰って家の中での（ある程度の）自由を取り戻した時に、鷹司秀が「腰をやっちゃった」と雑な説明をしてきた。

寝たきりにでもなるのかと思ったが、ぎっくり腰の療養法は普段と同じ活動を心がけることらしい。

しばらくは起き上がるのも苦労していたが、懸命なりハビリにより徐々に回復傾向だ。杖を使わなければ歩きもできない時期も過ぎ、今はなんとか前のように暮らしている。流石にセックスほど激しい運動はできなかったものの、鷹司秀は時々痛み止めを飲みながらヨロヨロと仕事に行ったり、帰ってきて家事に励んだりしていた。

ぶっちゃけて言うと、良い気味である。

時々呻き声を上げながら動きを止めている鷹司秀を見ると、胸がすく思いだ。

「待ってて、すぐにご飯作っちゃうから」

腰を痛めてしまっただけからは、流石に手のこんだ料理は難しいらしい。

最近はどこからともなく届けられてくる料理が、食卓の主力だ。

宅配とはいえ、その味は私が自由に暮らしていた頃に食べていたものとは全く違う。デパ地下で買うような見た目のプラスチック容器に入っているけれど、明らかにそれよりも手がこんでいる。

今日の夕飯は、生春巻きに肉団子、その他もろもろ。

奴が作っていないというだけで、五割増くらい美味しく感じる。  
脱出という主目的は果たせそうにないとはいえ、この展開は歓迎している。

洗い物が増えるし、そのプラスチック容器から直接食べればいいのに。  
まめな性分であるらしい鷹司秀は、今日もいそいそと料理を高そうな皿の上に載せ替えている。

ちなみに、鷹司秀が立ち歩けるようになるまでは、黒服の男がエプロンをつけ家事に勤しんでいた。

サングラスをつけたまま知らない男が、家の中をウロチョロする異様な光景。

思わず彼が来るたびに目を奪われてしまっていたために、鷹司秀の嫉妬によって黒服滞在中は目隠しをされた。

ついでにめちゃくちゃネチネチした愛撫を食らったりして、本当に最悪だった。  
腰が爆発した状態でよく性欲キープできるな。

「お腹すいた？ ちょっと待っててね」

出来合いのものを移すだけだから、包丁や火はいらない。  
そういうわけで、私は危険なものを全て封印されたキッチンへの立ち入りを許されている。

もちろん、別に手伝ったりはしない。  
箸箸を使って皿に料理を持っている鷹司秀の、スラックスにしまわれている裾のあたりーつまりは腰を指先でぐっと押した。

「……………ぐ、ぐらっ……………」

鷹司秀が、悲鳴を堪えて崩れ落ちる。

普段は見ることもないつむじが視界に現れたので、とりあえずそこも押しておいた。  
くらえ下痢ツボ。

ちなみにつむじに下痢ツボがあるというのは、デマらしいからこれはただの勢いだ。

屈強な肉体を持つ鷹司秀だが、こうなってしまうえば筋肉などただの無駄肉である。

「駄目だってば……………治ったらいくらでもつついていいからっ……………あぐっ……………」

鷹司秀のたしなめを無視してもう一度腰を指で押すと、作業台に手をかけたまましがみこんだ状態で、悲鳴を漏らした。

いい気味である。

実を言うとこのしょうもない嫌がらせを、鷹司秀が腰を痛めてから一日数回は必ずやっている。

相手が抵抗できないとわかり切っているので、大変楽しい。

こんな状態でもしつかり家からは出られないようにされているのは、流石の最悪さだけれど。

毎日同じ展開なのだから、縛るなりして治るまで私を拘束していればいいのに。

鷹司秀は珍しく私が自分から寄ってくる状況が惜しいらしく、対策を取れずにいる。

そろそろお腹が空いたので、つつくのをやめる。

鷹司秀は浅く長く息を吐きながら、なんとか立ち上がって再び食事の準備を再開した。

こいつの腰痛、一生治らなければいいのに。

そんなことを思いつつ、私は食事が出てくるまで暇だからリビングでテレビを見るため、その場を後にした。

しばらくして全快した鷹司秀に、これまでの復讐の復讐をされるのはまた別の話だし、以降風邪などで弱ると私が寄ってこないかと、期待に満ちた目でこっちを見るようになったのも別の話である。